

2011年12月27日

内閣総理大臣
野田 佳彦 様

新日本婦人の会
会長 笠井 貴美代

辺野古新基地のための 環境影響評価書の提出につよく抗議し、 即時撤回を求めます

防衛省沖縄防衛局は、昨日26日、沖縄県名護市辺野古への新基地建設に向けた環境影響評価書を沖縄県庁宛に送付したことが明らかになりました。

評価書提出は、沖縄県選出の国会議員全員が反対し、県議会をはじめ31市町村議会が提出断念を求める決議を採択しており、文字通り「県民の頭越し」の強行であり、沖縄県民の意志を蹂躪する暴挙につよく抗議します。

このような評価書提出の強行は、田中聡防衛局長（前）の「犯す前にこれから犯しますよと言いますか」と性暴力に例えた暴言でも明らかのように、沖縄県民を冒とくし、もはや「力づく」で基地建設を強行する姿勢そのものです。

県民の怒りの前に、評価書を県庁へ直接持ち込んで提出するのではなく、輸送業者に代行させ「送付」という異例の対応にも道理のなさが表れています。

一川防衛大臣は評価書の提出について、「手続きとして粛々としておこなう」と述べていますが、辺野古アセスそのものがアセス法にも違反する進め方であり、つくられようとしているのは、米軍本位の好き勝手な訓練、運用をする米軍基地です。貴重な自然を破壊し、人権を蹂躪する米軍基地を日本政府、防衛省が「手続きとして粛々」と強行するなど許されません。

沖縄県民の総意は、県内移設反対であり、辺野古への新基地建設ノーです。

新日本婦人の会は、米軍新基地建設のための環境アセスメント最終評価書の提出に強く抗議し、即時撤回を強く求めます。